

東通原子力発電所前面海域における海上音波探査の実施概要

1. 調査の目的

東通地点の設置許可申請ならびに耐震安全性評価にあたっては、平成 18 年 9 月に改訂された耐震設計審査指針にもとづき活断層等の評価を行っており、海域の活断層評価にあたっては、敷地周辺海域で昭和 52～平成 15 年に実施したシングルチャンネル音波探査、ならびにマルチチャンネル音波探査、また、他機関（国土地理院等）が実施した海上音波探査記録の再解析を行う等、十分な調査結果にもとづいて行っている。

しかしながら、新潟県中越沖地震の発生を踏まえ、東通地点においても、念のため、これまで実施してきた海上音波探査による評価結果の信頼性を確認するため、海上音波探査を実施する。

2. 調査内容

調査の内容は以下に示すとおり。

調査の対象：敷地東方沖断層

目的：浅部を対象とした調査による断層の活動性の確認（浅部探査）

深部を対象とした調査による断層の深部構造の確認（深部探査）

調査仕様：右表のとおり。

調査位置：下図のとおり。

3. 現地調査期間

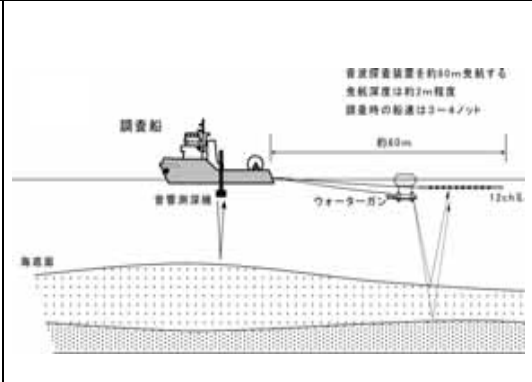
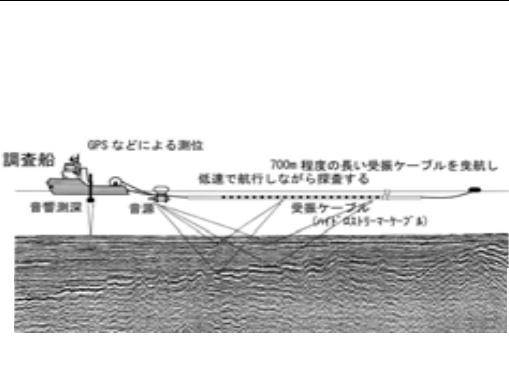
7 月 24 日から 7 月下旬を予定。各調査にかかる日数は以下のとおり。

浅部探査 1～2 日

深部探査 1～2 日

ただし、海象次第で数日間待機することもある。

以上

| 調査海域 | 敷地東方沖断層周辺海域 | |
|--------|---|---|
| 発振機 | 浅部探査 | 深部探査 |
| 発振器 | ウォーターガン | エアガン |
| 発振間隔 | 5 m | 25m |
| 受振器 | 圧電型振動素子 5 素子×12 チャンネル チャンネル間隔：2.5m | 圧電型振動素子 8 素子×48 チャンネル チャンネル間隔：12.5m |
| 受振器の長さ | 約 60m (水深約 2 m を曳航) | 約 700m (水深約 3～5 m を曳航) |
| 記録範囲 | 2.0sec (1,500m) | 4.0sec (3,000m) |
| 調査船 | 挑洋丸 | |
| 調査概念図 |  |  |
| 備考 | 既往調査（シングルチャンネル）に比べ、よりクリアな記録を取得可能 | 既往調査（最大 2,250m）に比べ、より深部の構造が確認可能 |

